

2020 Vol.

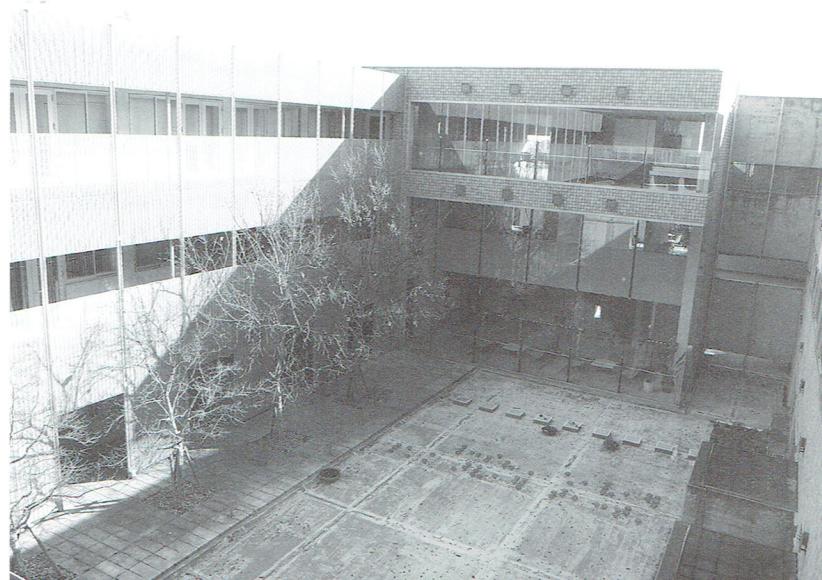
37

今年度のニュースレターをお届けします。

今年度をもちまして、研究実践プロジェクト「現代人の心の危機に関する共同研究～Phase5：過去と向き合い、未来を創る」が終了いたします。「次世代育成」や「子ども・子育て実践」を大きなテーマとして注力してまいりましたPhase5で蓄積したデータ・経験を基に、来年度からも邁進してまいります。

今号は、Phase5の最後の活動報告となります。

年度内に開催予定の3件を除く、9件の活動について、企画者（あるいは講演者）の先生にご報告いただいています。ご味読ください。





活動報告

●2019年度の活動

公開講座

第10回 お父さん・お母さんのための子育て応援講座 「子どもの安心基地になるために」

日 時：2019年4月25日(木) 10:30～12:00(受付開始10:00～)
場 所：甲南大学18号館3階講演室
講 師：北川 恵(甲南大学文学部教授・人間科学研究所所長／臨床心理士)
スタッフ：岩本 沙耶佳(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員)
甲南大学大学院生・学部生8名、託児担当者4名
参 加 者：17名(うち、大人10名、子ども7名(託児7名))

子どもは、お父さん・お母さんが「安心基地」になってくれることで、不安なときは信頼できる人を頼りながら、自分でいろいろな挑戦をすることができるようになります。本講座は、そうした関係を築くうえで大切なポイントをお伝えするために、毎年開催しています。質疑応答では、子どもの気持ちに寄り添うことの実際問題について、具体的に困った場面をあげながら、たくさん質問をしていただきました。日々、子どもに向かって関わる親にも「安心基地」が必要です。今年で11年目を迎える「親子がホッとつながるグループ」にも多くの方に参加申込をしていただきました。来年度の子育て応援講座は、2020年4月23日(木)の開催を予定しています。



(報告者：北川 恵・岩本 沙耶佳)

第11期 親子がホッとつながるグループ2019

日 時：
＜前期＞2019年6月6日から7月25日、
＜後期＞2019年10月3日から11月21日、
いずれも毎週木曜日(全8回) 10:00～11:30
場 所：甲南大学18号館演習室2(プログラム)／講演室(託児)
実施責任者：北川 恵(甲南大学文学部教授・人間科学研究所所長／臨床心理士)
ファシリテーター：岩本 沙耶佳(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム
相談員／臨床心理士)
甲南大学大学院生・学部生9名
子育てライブラリー／託児担当者2名
参 加 者：母親12名、子ども11名

「親子がホッとつながるグループ」は11年目の開催となり、前期と後期の2期に分けて、「安心感の輪」子育てプログラムを行いました。小さな子どもにとっては養育者に安心感を与えてもらえることがとても大切です。しかしながら親にとっては、忙しくて余裕が無かったり、しつけとの兼ね合いで困ったりすることもあります。そうした実際問題も含めて、子どもとの関係をプログラムに沿って振り返りました。参加者からは、「みんな同じように思っていることがわかって、気持ちが楽になった」「自分自身の心の余裕ができた」「子どもが様々な感情を表現してくれるようになった」「自分のこともほめてあげようって思えるようになった」など感想を寄せて頂きました。

来年度も同様のスケジュールで開催する予定です。参加者募集を年度初めに行いますので、ぜひご参加・お問い合わせください。

(報告者：北川 恵・岩本 沙耶佳)

子育てライブラリー2019

＜第1回＞
日 時：2019年4月25日(木) 9:30～10:15
場 所：甲南大学18号館3階共同研究室I
スタッフ：甲南大学大学院生・学部生8名兼託児担当者4名
参 加 者：14名(保護者7名、子ども7名)
＜第2回＞
日 時：2019年8月24日(土) 10:00～13:00
場 所：甲南大学18号館3階講演室
スタッフ：岩本 沙耶佳(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員)
兼託児担当者4名
参 加 者：46名(保護者25名、子ども21名)

人間科学研究所では子育て支援の一環として、絵本や紙芝居、育児関連の本を読むことができる場所を地域の子育て中の皆様に開放する「子育てライブラリー」を開催しています。今年度も多くの親子が参加してくださいました。スタッフが絵本を読み始めると、子どもたちは夢中になって聞いていました。子育てライブラリーは、



次年度も継続予定です。

次回は、2020年3月7日(土)に開催する予定です。当日は、大型絵本や紙芝居の読み聞かせの時間も予定しています。また、親子と一緒に楽しめる絵本が増えましたので、お気軽にご参加いただきたいと思います。

(文責：北川 恵・岩本 沙耶佳)

公開研究会

子どもの哲学 in 甲南大学 2019 初夏

日 時：2019年5月11日(土) 15:00～16:10
場 所：甲南大学18号館3階講演室
企 画：川口 茂雄(甲南大学准教授)
講 師：川崎 惣一(宮城教育大学教授)

大型連休明けの土曜日5月11日に、〈子どもの哲学 in 甲南大学2019初夏〉を開催しました。人間科学研究所での子どもの哲学の開催としては三度目となります。

これまでの子どもの哲学(p4c)の開催では、テーマは参加者からの提案などから当日に設定されるかたちにしていましたが、今回は実験的に事前にテーマを設定し、お知らせしておいての開催というかたちをとりました。そのテーマは「がまんするのよいこと？悪いこと？」でした。



今回もさまざまな参加があり、川崎先生のコーディネートのもとで、テーマについて各人の感じること・考えてみたことなどが、積極的に、楽しげに、あるいはもじもじと、おおおおと、熟考された仕方で、あるいは問い合わせるような仕方で、語られていました。

大人にとって抽象的なと思われることがじつは子どもの皆さんにとっては具体的な感じられていたり、また逆に、大人は具体的な事柄だととらえていることが、子どもにとってはひどく抽象的に思われたりすることがあるといったズレ、ないしは子ども同士のあいだにあるズレも、ひとつの貴重な気づきの材料として、今回のような探究的対話の場では現われていたように見えました。

次回はまた2020年度に開催の予定です。研究所のホームページおよびツイッターにて日時などはお知らせしてまいります。

(文責：川口 茂雄)

シンポジウム

第1回九鬼周造記念講演会「九鬼周造の人生と哲学」

日 時：2019年7月13日(土) 15:00～17:00
場 所：甲南大学 岡本キャンパス iCommons地下1階iStage
企 画：川口 茂雄(甲南大学准教授)
講 師：古川 雄嗣(北海道教育大学旭川校准教授)
長岡 徹郎(京都大学非常勤講師)
山根 秀介(舞鶴工業高等専門学校講師)

甲南学園100周年にあたる今年、7月13日(土)に、第1回九鬼周造記念講演会シンポジウム「九鬼周造の人生と哲学」が開催の運びとなった。



世界的に日本哲学への関心が高まるなか、九鬼周造の人と仕事もまた新たな脚光を浴びるようになってきている。そうしたなか、九鬼周造文庫の整備・管理・維持に長らく努めてきたここ甲南大学において、九鬼周造についての公開講演会を実施することは学問的にも社会的にも講ぜられている事柄であったと思われる。このたび、さまざまな方々のご尽力により、第1回講演会としてのシンポジウムを無事開催することができたのは大変喜ばしいことである。

九鬼周造の哲学、および彼が関心を寄せたフランス・ドイツ・日本の文化・文学・芸術、九鬼が属した京都学派の哲学潮流、こうしたものが今後当講演会のテーマとして取り上げられてゆくことになるであろう。あわせて、デジタル化が急速に進む現在の時代においてアーカイブということをめぐる学問的・社会的な意義の新たな検討もまた、当講演会にとって無関係なテーマではない。

第1回講演会シンポジウムでは、森研究所長による開会挨拶の後、『偶然と運命——九鬼周造の倫理学』という著書などで知られる九鬼哲学の研究者、古川雄嗣先生(北海道教育大学旭川校准教授)による講演がおこなわれ、次いで二人のコメントーター、長岡徹郎先生(京都大学非常勤講師)と山根秀介先生(舞鶴工業高等専門学校講師)による発表がおこなわれた。九鬼哲学について初めて知る人にとっても、すでに多少親しんでいる人にとっても、大変聴きがいのある、いずれも充実した内容のプレゼンテーションであった。その詳細は人間科学研究所の紀要に後日掲載される予定である(ウェブ上からもPDFとしてアクセス可能)。

当日は幅広い来聴があり、人数だけでなく、質的な広がりも、甲南大学の学生・大学院生、関西圏各大学の大学院生、近隣市民、大学OB、大学職員・教員と、有意義な幅を見せていました。主催者の想定以上であったことを告白しておくべきであろう。こうした哲学系の公開イベントは、関西においては京都市ではいくらか存在するが、より人口の多い阪神間で意外にもあまりおこなわれていなかつたかもしれない。伝統と新しさの両方に目を配りつつ、各分野の第一人者を招いての興味深い内容をオープンな仕方で文化コンテンツとして継続的に提供するという任務を研究所として担えることは光榮なことであり、今後も努力を続けてまいりたい。

(文責:川口 茂雄)

甲南アトリエ

「第9回親子孫子で楽しむアート

～不思議な素材：モデリングペーストで創ろう」

日 時：2019年7月20日(土) 10:00～12:30

場 所：甲南大学18号館3階講演室

企 画：内藤 あかね（甲南大学人間科学研究所／客員特別研究員）

講 師：棕田 三佳（美術家）

「第10回親子孫子で楽しむアート～マスキング・テクニックに挑戦」

日 時：2019年11月30日(土) 10:00～12:30

場 所：甲南大学18号館3階講演室

企 画：内藤 あかね（甲南大学人間科学研究所／客員特別研究員）

講 師：棕田 三佳（美術家）

今年度、甲南アトリエの事業として2回のアート・ワークショップを行つたので報告する。「親子孫子で楽しむアート」は、家族でも個人でも参加できる形態をとっているが、企画の最大のねらいは、アートの制作過程にまつわる楽しみや面白さや苦労など様々な体験を家族で共有したり、新しい知識や発見を得る機会を家族で分かち合ったりする機会を提供することにある。今年度は、講師の棕田三佳先生にアイディアを頂いて、日常ではなかなか手にすることのない画材や技法をテーマに据えて、参加者が新しい知識や技術に触れるように配慮した。どちらの回も定員15名を上回る申し込みがあり、親子三代からカップルまで様々なグループでの参加をいただいた。

第9回のワークショップは、小学校が夏休みに入った直後とあって、小学生や就学前の子どもが多く参加する賑やかな回となつた。この日に使ったモデリングペーストは、大理石の粉にアクリル樹脂を混ぜて作られた素材で、絵の下地、ジオラマなどの模型づくりなど、いろいろな造形に使われている。見た目は白い歯磨き粉のようだが、ペイントイングナイフ等の道具を使って造形すると、数十秒で固まる。塗り付けたところに軽めの素材を載せて付着させたり、着彩したりすることができる。また、まだ柔らかい内に絵具を混ぜて色つきのペーストにしてから造形することもできる。子どもだけでなく大人の参加者も「面白い！」、「こんなのは初めて！」と口にしながらその感触を楽しんでいた。棕田先生が最初のインストラクションで、コルクボードにモデリングペーストを塗って、塗り面自体に立体的な模様を付けたり、貝殻やビーズなどのパーツを載せていく手法だったこともあり、参加者の多くはその方法で1作目に挑戦していた。盛夏の季節感を意識したパーツがあったせいか、海をイメージした作品が多かったが、同じ海でも波間にイメージした人もいれば海底を思い描いて創作した人もいて、色合いも人それぞれであり、シェアリングの時間に作品を一堂に会したときは、参加者もスタッフもその違いを味わいながら鑑賞できたように思う。子どもたちは想像をファンタジーの世界へ展開して創作する人、画材の質感を味わい試行錯誤を重ねる人、丁寧な仕事を集中して続ける人…個性を見せながら各人が造形に励んでいた。まだ3歳に満たない子どもが父親と黙々と制作している姿を見て、環境を整えることで子どもたちにできることはいろいろあるものだと実感した。親たちからは、制作中やシェアリングの時間に、子どもたちの視覚表現が生まれてくる様子をリアルタイムに見ることで「驚いた!」「感心した」という発言が多数あった。家族でアート制作をする機会をもつことの意義は、まさにそのようなところにあると思う。

第10回では、「マスキング」という技法を使った描画、造形を行つた。マスキングテープやマスキングインクを使って「覆ったところをつくり」、その上からアクリル絵具やポスター色で色を塗つてから、その覆い(=テープ、乾いたインク)を剥がす。すると、絵具で塗られた部分との間にコントラストが生まれ、模様ができる。通常は背景になる地が図になり、テープやインクを剥がすまでどんな絵になるか予想がつきにくいゆえの面白さがある。今回は棕田先生が最初のデモンストレーションで水彩紙にテープやインクを貼る方法と、木製のボックス型ミニラックにテープを貼る方法を示し、ともに上から絵具で着色をして剥がすという説明をした後、参加者は自由に画材を選び、制作した。今回の課題は子どもにとっては扱いのやや難しいマスキングインクやアクリル絵具を使うため、企画者としては心配する面があったのだが、皆

大人の助けを借りたり助言をもらったりして試行錯誤して使っていたし、思い通りにいかなくて取り乱すようなこともなかった。ボックスを使って工芸的に美しい作品を目指す人、水彩紙に印象的な自然の光景をモチーフにしたアートを描いた人、子どもの大好きな恐竜のいる風景を親子で共同制作する家族、地図をモチーフに連作を創る人…参加者が年齢を問わず、思い思いの方向性で創作に励んでいたと思う。今回も2歳児の参加があつたが、祖母と母と同時に並びで自分の作品に一生懸命取り組んでいて、お互いの創作意欲が共鳴しているように見受けられ、感心させられた。

第9回は夏休みで子どもの参加が多く見込まれたため、大学生のスタッフを交えての運営を行い、学生スタッフが準備や制作補助などをよく手伝ってくれた。だが、基本的にスタッフが少ないためにどちらの回も定員を抑えての開催となった。ワークショップも10回目ともなると新規の申し込みの他にリピーターの参加者も増えてくる。アート制作に関心のある参加者の活発な制作態度によってクリエイティブな雰囲気がつくられることが、新しい参加者にも安心して制作に打ち込める素地になっていると思われる。ワークショップの最後に行うシェアリングの時間が和やかにお互いの作品を鑑賞し、話を聴ける時間になるのも、こうした雰囲気に支えられてのことであろう。アート制作を介した創造とコミュニケーションの場を体験する機会を今後も地域の家族や個人に提供できればと願う。

(文責:内藤 あかね)

「画面の夜空に花火を打ち上げよう」

日 時：2019年8月12日(月・祝) 10:00～12:30

場 所：甲南大学18号館3階講演室

企 画：内藤 あかね（甲南大学人間科学研究所／客員特別研究員）

講 師：引頭 真由美（ATELIER WINDOW／絵画教室講師）



夏休み期間中に開催された今年度2回目の甲南アトリエは、岡本で子どものための絵画教室を運営する引頭真由美氏を講師に迎えて、ドリッピングなどの技法を用いた抽象的な絵画表現に取り組んだ。講師の引頭氏のご協力もあり、近隣の住民の皆様への周知も進み、募集開始間もなくして定員の15名の応募があった。お盆前の慌ただしい時期でありますながら定員をオーバーする応募や問い合わせがあったことは、この甲南アトリエのシリーズが地域に定着して認知されつつあることの表れだろう。

今回の制作では、絵具や筆というオーソドックスな画材の他に、ローラー、スポンジ、竹串、網とブラシなどを使って、絵具を紙の上に飛び散らしたりしながら、夜空の花火をイメージした絵画の創作に取り組んだ。背景のブルーと花火の色が混ざり合ってしまうなど、最初のうちは苦労していた参加者も、徐々にコツをつかみ、伸びやかな表現を行うようになっていた。体験したことのない技法を取り組むことで、親子や他の参加者との対話も活発になったように感じられる。最後は、自分の作品をフレームに収めることで客観的に作品を評価し、感想を述べ合って終了した。抽象的な図柄で、技法的にもあまり巧拙に囚われない表現内容だったので、創作を通じて気持ちを開放するというこのアトリエの目的が十分に達成されたように思う。

(文責:服部 正／兼任研究員)

シンポジウム

次世代育成研究シンポジウム

「大学も子育ての担い手II～子ども・子育て支援とライフプラン教育～」

日 時：2019年9月28日(土) 14:00～16:00

場 所：甲南大学18号館3階講演室

企 画：前田 正子（甲南大学マネジメント創造学部）

中里 英樹（甲南大学文学部）

野崎 優樹（甲南大学文学部）

定立 泰美（甲南大学経済学部）

森 茂起（甲南大学文学部）



研究所の主要主題の一つである「次世代育成研究」では、2018年度に木下記念事業団の研究助成を受け、政策学、経済学、社会学、心理学の専門家からなる研究チームによって「次世代育成を含むライフプラン形成の促進を目指す実態調査・実践的研究・施策検討」の研究事業を行なつた。本シンポジウムでは、各研究メンバーによる研究結果方向を踏まえて、今後の子ども・子育て支援の課題を整理し、2019年度から甲南大学で開講されるライフプラン教育の内容を検討した。研究所紀要に詳しく掲載するように様々な主題が検討されたが、発表後の討論では、特に育児休業、保育所、家庭分担の問題について特に活発な議論が交わされた。育児休業制度は整ってきておりが有効な運用ができるいいこと、保育所問題は需要と供給のバランスが地域によって大きく異なること、家庭分担を進めるためにさらに意識変革が必要などの論点が扱われた。

(文責:森 茂起)



公開講座

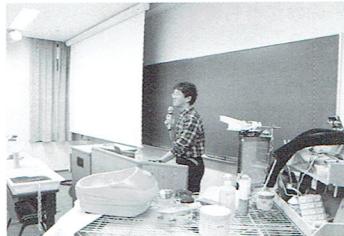
アートと発達支援連続公開講座 vol.7 「生活支援と創作活動～びわこ学園の実践から」

日 時：2019年11月16日(土) 13:00～14:30
 場 所：甲南大学岡本キャンパス 10号館 10-14教室
 講 師：水津 哲（びわこ学園医療福祉センター野洲
 粘土室担当）
 服部 正（甲南大学文学部教授、人間科学研究所兼任
 研究員）
 大西 彩子（甲南大学文学部准教授、人間科学研究所
 兼任研究員）

今年度のアートと発達支援公開講座では、重度心身障害児／者に対する創作活動による発達支援の在り方について考えるために、びわこ学園医療福祉センター野洲で粘土室の運営を担当している水津哲氏を講師に迎えて、1971年から長年にわたって粘土による造形活動を行ってきたびわこ学園の取り組みについて学ぶ機会とした。びわこ学園では、130人ほどの利用者を対象として粘土活動を実施しており、それぞれの利用者の状態・好みに対応するため、湯袋や大豆・菜種など様々な素材を使用した感触遊びを行っていることや、主体的に手が使えない重度の障害のある利用者に対して、マッサージ的なかかわりなどを実施していることを、写真や映像を通して紹介していただいた。

粘土室に移動することが困難な利用者のために、利用者の居室で造形活動を行うための道具一式を講義室に持ち込んでいただき、それぞれの利用者に合わせて手作りされた支援器具に実際に触れる機会も提供していただいた。実演も交えての臨場感あふれる講演からは、創作活動の目的が「作品」の制作ではなく、筋肉の刺激などによる発達支援の手段でもあるというびわこ学園の実践の意味を深く学ぶことができた。

(文責:服部 正／兼任研究員)



とが大切であるという、感情観の重要性について、具体的な技法例も交えながら紹介していただき、感情との付き合い方について改めて考える良い機会となりました。続いて、藤野正寛先生(京都大学)より、次々と生じている今この瞬間の出来事や経験にありのままに気づく技法である「マインドフルネス」に関して、ワークを交えながらレクチャーと実習が行われました。自分のあるがままの呼吸に注意を向けるエクササイズなどを通じて、体験的にマインドフルネスがどのようなものであるかを理解することができました。今回のワークショップでは、いずれも心理学研究に裏付けられた知見に基づき、感情との上手な付き合い方を改めて考えました。誰もが悩む身近なテーマに対して、新たな視点から考え方と技法を学ぶ、充実したワークショップとなりました。
 (文責:野崎 優樹)

公開研修会

第17回 KIHS ワークショップ 「～感情との上手な付き合い方を学ぶ～ 『感情マネジメント』×『マインドフルネス』」

日 時：2019年12月14日(土) 13:30～17:00
 場 所：甲南大学18号館3階講演室
 企 画：野崎 優樹（甲南大学文学部）
 講 師：榎原 良太（鹿児島大学）
 藤野 正寛（京都大学）

今年度のワークショップは、感情との上手な付き合い方について、「感情マネジメント」と「マインドフルネス」という切り口から学ぶことを目指して企画しました。ワークショップでは、初めに、榎原良太先生（鹿児島大学）より、「感情マネジメント」に関するレクチャーが行われました。感情マネジメントは、感情を意のままに操ったり、なるべく良い気分になったりすることが目的ではなく、むしろ、感情は生きるために必要な働きをしているのを認めるこ

これからの活動

シンポジウム

「子育てと社会」関連シンポジウム 「社会的養育を考える2： 児童養護施設の高機能化とは何か」

日 時：2020年1月25日(土) 18:00～20:00
 場 所：甲南大学18号館3階講演室
 企 画：森 茂起（甲南大学文学部）
 講 師：西澤 哲（山梨県立大学）
 星野 崇啓（さいたま子どものこころクリニック院長）
 鈴木 まや（尼崎市社会福祉事業団）

甲南アトリエ

「ペーパーバッグで動物を作ろう！」

日 時：2020年2月16日(日) 10:00～12:00
 場 所：甲南大学18号館3階講演室
 企 画：服部 正（甲南大学文学部）
 講 師：マスダ マキコ（from マキコムズ／造形作家・ワークショップデザイナー）

公開講座

子育てライブラー＜第3回＞&ミニ子育て講座

日 時：2020年3月7日(土) 9:30～12:30
 場 所：甲南大学18号館3階
 スタッフ：岩本 沙耶佳（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員）
 兼託児担当者 4名

発行年月日：2020年2月28日

編集後記

新しい時代、令和がスタートいたしました。新しい年に合わせて気持ちを切り替えるというお話を聞くことがあります、平成から令和に移り変わることについて、私は、平成で築き上げてきたものを大切にし、そのうえで新しい時代に適応する形に変えていかなければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

